

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
28-52	高等学校	地理歴史科	世界史 B	全学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	世 B-312	新詳 世界史 B		

1 編修の基本方針

◎ “新しい社会を生み出す創造力”の育成をめざして

現在の社会はグローバル化・情報化など、さまざまな変化が急速に進んでおり、高校生が身につけるべき知識や教養も多様化している。本書では、世界史 B の学習を通して高校生が世界の歴史のなかで形成されてきた知恵や概念をしつかりと継承できるように配慮しつつ、変化する現代の世界に対応した学習が可能になるよう意を用いた。

そのうえで今回の教科書の編修にあたり、これからの社会を生きていく高校生に対し、“新しい社会を生み出す創造力”を身につけ、主体的に社会の形成に参画する人間になってほしいと考えた。将来において、平和な生活を持続していくためには、現代の世界におけるさまざまな課題を理解し、さらにその課題を解決して、新しい社会に合わせたしくみやモデルをつくる必要がある。そのための“創造力”を育成することができるよう、とくに以下の方針を重視して本書を編修した。

◎ 21 世紀の現代につながる世界史が大観でき、その流れが理解しやすい世界史 B 教科書

① グローバル化を経た現代にいたる歴史がわかる教科書

- 現代までのグローバル化の過程や諸地域の相互関連がわかる特設ページ「**一体化する世界**」を設置した。
- 現在の世界で起こっている紛争や社会問題の歴史的背景がわかるコラム「**現代につながる諸課題**」を設置した。

② 日本史とのかかわりを重視し、歴史学の新しい研究成果を積極的に取り入れた教科書

- 日本史との関連を重視した特設ページ「**世界史への扉 日本の歴史と世界の歴史のつながり**」とコラム「**世界史の中の日本**」を設置した。
- 特設ページとコラムを中心に、積極的に歴史学の新しい研究成果を取り入れた。
- ジェンダー史や女性史の研究成果、多様な視点や切り口、地域の結びつきや交易の歴史を、コラム「**視点をかえて**」「**社会をみる**」「**地域を結びつけるもの**」に取り入れた。

③ わかりやすい記述と生徒が学習しやすい構成を追究した教科書

- 歴史の流れを理解しやすくするために、因果関係を重視した歴史記述を心がけた。
- 世界史全体の動きを捉えやすくするよう、部ごとに概観するページや節・小見出しごとに要約文を設置した。
- 学習のなかで難解な事項や補足すべき内容については、側注で取りあげ解説するようにした。また、世界史を学習する際に必要な概念を解説した「**キーワード**」を設置した。
- 世界史学習の基礎となる風土について丁寧に記述し、地域のようなすがわかりやすい植生表現の地図を掲載した。
- できごとや事件がどの場所で起こったのかをすぐに確認できるよう、全体を通して、地図を豊富に設置した。
- 世界史の理解を深め、定着させることができるよう、「**Let's Try**」という問いかけを側注欄に設置した。
- 作業や資料解説を通じて歴史的思考力を高めるための特設ページ「**Skill を高める**」を設置した。
- 生徒の自学自習をサポートするため、各ページに地域インデックスを設置し、行間には、本文に関連する図を示す参照記号や関連ページへのリンクを付すなどした。

[教育基本法 第2条への対応]

第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと

▶「幅広い知識と教養を身に付け」ることについて、本書では、世界の歴史の大きな流れや変化をしっかりと理解すると同時に、人権の保障や異文化理解など、世界の歴史のなかで形成されてきた知恵や概念を、継承していくべき教養の一つとして身につけることが大切であると捉えた。

- ① 丁寧な記述によって、現代につながる世界の歴史を深く理解できるようにした。その際、背景や因果関係まで記述することで、生徒が理解しやすいよう配慮した。
- ② 写真やグラフ、模式図などの視覚資料を数多く設け、さまざまな資料を活用しながら学習内容の理解を深められるよう配慮した。また、本文行間には写真や図表への参照記号を設け、本文と写真や図表との関連をはかりながら学習できるようにした。
- ③ 「**キーワード**」を充実させ、世界史を学習するうえで重要な用語の理解を深められるよう配慮した。
→ p.12, 19, 45, 50, 78, 155, 184, 192, 234, 275 など
- ④ 特設ページ「**一体化する世界**」を設けることで、同時代的に世界史を理解できるようにした。
→ p.59, 91-92, 118, 154-155, 180-181, 198, 245, 286, 311, 325

▶「真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う」ことについて、本書では、他者の立場でものごとを考えた、相手に共感したり、助け合ったりすることの大切さを実感できるようにすることが大切であると捉えた。

- ① 当時の人々の証言や記録などをできるだけ多く取り上げ、その時代を生きた人々の立場で考え、共感できるようにした。 → p.29, 165, 173, 181, 194, 229, 267, 278, 302 など
- ② 人々の日常の営みがわかるように、暮らしや当時の家族制度などを紹介するコラムを用意し、臨場感をもって学習ができるようにした。 → p.29, 57, 80, 127, 196, 218 など

第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと

▶「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う」ことについて、本書では、高校生が能動的に学習に取り組み、自分なりの意見や考えをもつ態度を養うことと捉えた。

- ① 作業課題の「**Let's Try**」や「**Skill を高める**」を各所に設けることで、能動的に学習に取り組めるようにした。また、「**節のポイント**」や小見出しごとの要約文を設けることで、学習にあたっての見方・考え方の視点を示すようにした。
- ② 一般ページには、その見開きや節に掲載されている地名を確認できる地図を設置し、その解説文で、地図を読み解く視点を示すことで、読解力を育成し、より能動的に学習することができるようにした。

▶「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度」について、本書では、歴史上の取り組みと自らの将来を結びつけて、社会を改善しようとする態度をもつことが重要であると捉えた。

- ① 社会を改善しようとする取り組みや歴史を紹介することで、生徒の身近にある社会制度や勤労の権利や義務がどのように成立したか理解できるようにした。 → p.102, 135, 184, 238, 313, 319 など

第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと

▶「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる」ことについて、本書では、過去の事例を通じて「正義」とは何かを考え、男女平等の実現に向けて行われてきた努力を理解することが大切であると捉えた。

- ① 宗教やイデオロギーの違いなど、立場によってそれぞれの「正義」があり、それが対立につながることもあることが理解できるようにした。一方で、人々は対立を望んでおらず、お互いの文化の違いを理解することで対立を避ける努力もなされてきたことについても、理解できるようにした。→p.81, 141, 229, 243 など
- ② 男女の平等について、過去における女性が置かれてきた立場や女性の権利の獲得に関する歴史、社会的性差のあり方の変化を紹介し、現在の状況と照らし合わせながら考えられるようにした。→p.23, 115, 194, 272, 324 など

▶「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」について、本書では、持続可能な社会の形成のために主体的に参画する態度を養うことと捉えた。

- ① 3部4章「**相互依存を深める世界**」において、地域格差や地域紛争といった問題を解決するために、国際連合をはじめ、政府開発援助 (ODA) による協力や NGO・NPO といった組織などが努力していること、また環境問題についても地球規模で取り組みを行っていることを紹介した。→p.323, 324 など
- ② 特設ページ「**Skill を高める 資料を活用して探究する地球世界の課題**」において、現在の南北問題の起源を考察し、持続可能な社会の形成に向けて、生徒が自分の考えをもつことができるよう配慮した。→p.326

第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと

▶「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う」ことについて、本書では、過去における人々と自然との関係のあり方やその変遷を知り、自然との共生を目指す態度を養うことと捉えた。

- ① 各諸地域世界を学ぶ初めのページに、地域の風土や社会について記述する小見出しを設置し、これから学習する地域の自然環境やそれが歴史に与えた影響について考えられるようにした。→p.13, 37, 38, 44, 47, 55, 93
- ② 特設ページ「**世界史への扉 自然環境と人類のかかわり**」を設置し、自然環境と人類が互いにどのような影響を与えてきたのかを紹介した。→p. 巻頭Ⅲ-1, 2-3

第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐぐんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと

▶「伝統と文化を尊重し、それらをはぐぐんできた我が国と郷土を愛する」ことについて、本書では、日本の歴史や文化が形成された歴史を知り、わが国の文化を理解する態度を養うことと捉えた。

- ① 特設ページ「**世界史への扉 日本の歴史と世界の歴史のつながり**」を設置し、日本列島にみられる産物・遺跡などが世界とどのように結びついていたのかを紹介した。→p.77, 130, 138
- ② コラム「**世界史の中の日本**」を各所に設置し、日本と世界の関連を示すとともに、世界の歴史の中で日本がどのような役割をもっていたかがわかるようにした。→p.41, 116, 150, 249, 307 など

▶「他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度」について、本書では、過去における他国とのつながりについて理解するとともに、日本が経験してきた戦争に対して真摯に向き合ったうえで、多様な課題を抱える他国の立場への理解を深め、多様な人々が共存する平和な社会を築くための知識と態度を育むことと捉えた。

- ① コラム「現代につながる諸課題」を各所に設置し、現在、世界各地で起こっている諸問題の歴史的起源を示すとともに、その地域にどのような課題があるかを理解できるようにした。 → p.133, 204, 228, 301 など
- ② 日本が経験してきた日中戦争・太平洋戦争について、当時の状況や各国の動きを因果関係も含めて詳細に記述し、戦争について真摯に向き合い、平和について考えられるようにした。 → p.279-285

2 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
全体を通した構成の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な記述によって、現代につながる世界の歴史を深く理解できるようにした。その際、背景や因果関係まで記述することで、生徒が理解しやすいよう配慮した。(第1号) ・写真やグラフ、模式図などの視覚資料を数多く設け、さまざまな資料を活用しながら学習内容の理解を深められるよう配慮した。(第1号) ・「キーワード」を充実させ、世界史を学習するうえで重要な用語の理解を深められるよう配慮した。(第1号) ・人々の日常の営みがわかるように、暮らしや当時の家族制度などを紹介するコラムを用意し、臨場感をもって学習ができるようにした。(第1号) ・当時の人々の証言や記録などをできるだけ多く取り上げ、その時代を生きた人々の立場で考え、共感できるようにした。(第1号) ・作業課題の「Let's Try」を各所に設けることで、能動的に学習に取り組めるようにした。また、「節のポイント」や小見出しごとのダイジェスト文を設けることで、単元を学習するにあたっての見方・考え方の視点を示すようにした。(第2号) ・一般ページには、その見開きや節に掲載されている地名を確認できる地図を設置し、その解説文で、地図を読み解く視点を示すことで、読解力を育成し、より能動的に学習することができるようにした。(第2号) ・社会を改善しようとする取り組みや歴史を紹介することで、生徒の身近にある社会制度や勤労の権利や義務がどのように成立したか理解できるようにした。(第2号) ・宗教やイデオロギーの違いなど、立場によってそれぞれの「正義」があり、それが対立につながることもあることが理解できるようにした。一方で、人々是对立を望んでおらず、互いの文化の違いを理解することで対立を避ける努力もなされてきたことについても、理解できるようにした。(第3号) ・特設ページ「世界史への扉 日本の歴史と世界の歴史のつながり」を設置し、日本列島にみられる産物・遺跡などが世界とどのように結びついていたのかを紹介した。(第5号) ・コラム「世界史の中の日本」を各所に設置し、日本と世界の関連を示すとともに、世界の歴史の中で日本がどのような役割をもっていたかがわかるようにした。(第5号) ・コラム「現代につながる諸課題」を各所に設置し、現在、世界各地で起こっている諸問題の歴史的起源を示すとともに、その地域にどのような課題があるかを理解できるようにした。(第5号) 	<p>全体</p> <p>全体</p> <p>p.12, 45, 155, 184, 192, 234など</p> <p>p.29, 229, 267, 302 など</p> <p>p.29, 80, 127, 196, 218 など</p> <p>全体</p> <p>全体</p> <p>p.102, 135, 184, 238, 319 など</p> <p>p.81, 141, 229, 243 など</p> <p>p.77, 130, 138</p> <p>p.41, 116, 150, 226 など</p> <p>p.133, 204, 228, 301 など</p>
1部 諸地域世界の形成と交流 序章 人類の出現 1章 オリент世界と地中海世界の形成 2章 サハラ砂漠以南のアフリカ 3章 南アジア世界の形成 4章 東南アジア世界の形成 5章 東アジア世界のあけぼの 6章 中央ユーラシア世界の形成と展開 7章 東アジア世界の変動と再編 8章 イスラーム世界の形成と拡大 9章 ヨーロッパ世界の形成 10章 ユーラシア大帝国の出現	<ul style="list-style-type: none"> ・特設ページ「一体化する世界」を設け、ネットワーク論から歴史をみることで、同時代史的に世界史を理解できるようにした。(第1号) ・特設ページ「Skillを高める 時間軸からみる諸地域世界」「Skillを高める 空間軸からみる諸地域世界」を設置し、世界史の学習事項を自らまとめる作業を設けることで、能動的に学習に取り組めるようにした。(第2号) ・特設ページ「世界史への扉 自然環境と人類のかかわり」を設置し、自然環境と人類が互いにどのような影響を与えてきたのかを紹介した。(第4号) ・諸地域世界を学ぶはじめのページに、地域の風土や社会について記述する小見出しを設置し、各地域の地形や気候などの地理的特色を理解したうえで、これから学習する地域の自然環境に基づく背景について考えられるようにした。(第4号) 	<p>p.59, 91-92, 118</p> <p>p.70, 119</p> <p>p.巻頭Ⅲ -3</p> <p>p.13, 37, 38, 44, 47, 55, 93</p>

<p>2部 海洋による世界の一体化 1章 アジア諸地域の栄華と成熟 2章 大規模な分業体制の成立 3章 ヨーロッパ諸国の主権強化と大西洋三角貿易 4章 環大西洋革命 ～工業文明と国民国家の誕生 5章 イギリスの覇権と欧米の国民国家建設 6章 世界の一体化の進展とアジアの変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特設ページ「一体化する世界」を設け、世界システム論から歴史をみることで、同時代的に世界史を理解できるようにした。(第1号) ・特設ページ「Skill を高める 資料からよみとく世界の歴史」を設置し、絵画や史資料をよみとく考察する作業を設けることで、能動的に学習に取り組めるようにした。(第2号) 	<p>p.154-155, 180-181, 198, 245, 286, 311, 325</p> <p>p.176, 194, 229</p>
<p>3部 地球社会形成の模索 1章 世界の一体化の完成とその影響 2章 世界大戦の時代 3章 東西冷戦から多極的国際社会へ 4章 相互依存を深める世界</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3部4章「相互依存を深める世界」において、地域格差や地域紛争といった問題を解決するために、国際連合をはじめ、政府開発援助 (ODA) による協力や NGO・NPO といった組織などが努力していること、また環境問題についても地球規模で取り組みを行っていることを紹介した。(第3号) ・特設ページ「Skill を高める 資料を活用して探究する地球世界の課題」において、現在の南北問題の起源を考察し、持続可能な社会の形成に向けて、生徒が自分の考えをもつことができるよう配慮した。(第3号) ・男女の平等について、過去における女性が置かれてきた立場や女性の権利の獲得に関する歴史、社会的性差のあり方の変化を紹介し、現在の状況と照らし合わせながら考えられるようにした。(第3号) ・日本が経験してきた日中戦争・太平洋戦争について、当時の状況や各国の動きを因果関係も含めて詳細に記述し、戦争について真摯に向き合い、平和について考えられるようにした。(第5号) 	<p>p.323, 324 など</p> <p>p.326</p> <p>p.272, 324 など</p> <p>p.279-285</p>

3 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

①すべての生徒が読みやすい表現の工夫

- 見開きにおけるデザインや、グラフ・地図といった資料において、色覚に特性のある生徒でも識別できる色を使うよう配慮した。極力模様などを入れず、配色のみで色が区別できるようにした。また、折れ線グラフなどは形をはっきりさせるため、線を太くするなどの工夫も行ったことで、生徒が読み取りやすい表現にした。
- 本文などでは、文字をはっきりと読み取ることができるユニバーサルデザインフォント (UD フォント) を使用した。

②環境に優しい素材と堅牢な造本

- 紙には古紙を入れるとともに、環境に優しいフレッシュパルプを使用した。一方で写真がきれいに見えるよう、白くて裏写りが少ないものを使用した。
- 使用期間の間、壊れることがないように、堅牢なつくりにした。
- インキには植物性インキを使用した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
28-52	高等学校	地理歴史科	世界史 B	全学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	世 B-312	新詳 世界史 B		

1 編修上特に意を用いた点や特色

21 世紀の現代につながる世界史が大観でき、その流れが理解しやすい世界史 B 教科書

本書では、現代の世界が抱える課題や、社会はどのような歴史の流れのなかにあるのかを改めて検討し、高校生が将来社会に出たときに必要となる知識・教養を明確に示すことで、世界史を通して国際社会に主体的に参画する態度を養うことができるように編修した。

本書の特色

① グローバル化を経た現代にいたる歴史がわかる教科書

② 日本史とのかかわりを重視し、歴史学の新しい研究成果を積極的に取り入れた教科書

③ わかりやすい記述と生徒が学習しやすい構成を追究した教科書

特色 1

グローバル化を経た現代にいたる歴史がわかる教科書

1 現代までのグローバル化の過程や諸地域の相互関連がわかる特設ページ「一体化する世界」

・特設ページ「一体化する世界」では、ネットワーク論・世界システム論を軸に、グローバル化を経て現代にいたるまでの諸地域の相互の関連を示す、ダイナミックな世界史を展開した。これらの記述から、世界が歴史的にどのように一体化していき、グローバル化を迎えたかがわかる。また、ネットワーク論や世界システム論を活用することで、世界史を大きな一つのストーリーとして捉えることができる。高校生が世界史の学習を通して現代の理解だけでなく、未来への見通しをもてるようにした。

・地域ごとの歴史の流れにポイントがおかれる本文に対して、このページでは世界史を同時代の各地域のつながりで概観することができるよう配慮した。

○ p.91～92「8～12世紀 イスラーム＝ネットワークの形成と海の道の活性化」

p.154～155「16世紀 「世界の一体化」の始まり」、p.325「現代 グローバル化のゆくえ」など計10箇所

2 現在の世界で起こっている問題の歴史的背景がわかるコラム「現代につながる諸課題」

・現在の世界で起こっている民族紛争や対立、差別や社会問題などについて、コラム「現代につながる諸課題」を設置し、その背景を歴史的に解説した。

・コラム内に年表を設けることで、取りあげた問題の発生から現在までを時系列的に追いやすいように工夫した。

○ p.133「チベット・ウイグル問題」、p.219「イギリス統治とカースト社会の強化」

p.263「「国なき民」クルド人の独立運動」、p.301「今なお残る黒人差別問題」など計12箇所

特色 2 日本史とのかかわりを重視し、歴史学の新しい研究成果を積極的に取り入れた教科書

1 日本史との関連を重視した特設ページとコラム

- ・学習指導要領「(1) 世界史への扉 イ日本の歴史と世界の歴史のつながり」に対応した特設ページ「**世界史への扉**」のほか、コラムとして「**世界史の中の日本**」を設け、世界史と日本史が関連する事例を示した。これによって、それぞれの時代における多様な地域と日本とのかかわりを示せるようにし、世界史の中での日本の役割がわかるようにした。
- 特設「世界史への扉 日本の歴史と世界の歴史のつながり」… p.77 「官から民へ」の日宋貿易」など計 3 箇所
コラム「世界史の中の日本」… p.135 「アジア物産の国産化と日本経済」、p.238 「南米に渡った日本人移民」など計 19 箇所

2 歴史学の新しい研究成果を取り入れた特設ページとコラム

- ・前近代のアジアの活発な交易の様相や、植民地研究の潮流、気候変動の歴史など、新しい研究成果を積極的に取りあげるようにした。
- 特設ページ…p. 巻頭Ⅲ～1「世界史への扉 自然環境と人類のかかわり① 気候変動と歴史」 など
コラム… p.221 「アジア内貿易の発展」、p.244 「植民地研究の諸潮流：収奪論と近代化論」 など

3 ジェンダー史や女性史の研究成果、多様な視点や切り口を取り入れたコラム

- ・近年、多くの研究成果がまとめられているジェンダー史や女性史について、家族制度など当時の女性をとりまく社会のようすも含めて、これからの歴史観として必要な箇所において取りあげるようにした。
- p.80 「シャリーアとイスラーム社会の家族」、p.115 「女性が動かしたモンゴル帝国」、p.196 「市民社会と性別役割分担の定着」、p.272 「女性の社会進出と選挙権運動」、p.324 「ジェンダー（社会的性差）を越えて」 など
- ・歴史を異なる立場で捉えたコラム「**視点をかえて**」を設置し、ジェンダー史・女性史以外の面からも、歴史を多面的・多角的に捉えられるようにした。
- p.19 「バルシアからみたバルシア戦争」、p.209 「先住民にとっての「明白な天命」」など計 23 箇所
- ・コラム「**社会をみる**」を設置し、当時の社会、本文で示された事象が具体的に社会に与えた影響を取りあげた。
- p.82 「シーア派とスンナ派の歴史」、p.129 「転生とダライ=ラマ」、p.320 「地域紛争と難民」など計 36 箇所
- ・コラム「**地域を結びつけるもの**」を設置し、物体だけでなく制度や状態を含む広義の「もの」を切り口に、地域の結びつきやその歴史の展開を取りあげた。
- p.89 「イスラーム世界での砂糖の普及」、p.117 「紙幣の流通と海を渡る銅銭」など計 13 箇所

特色 3 わかりやすい記述と生徒が学習しやすい構成を追求した教科書

1 因果関係を重視した記述

- ・歴史の流れを理解しやすくするために、因果関係を重視した歴史記述を心がけた。とくに細かい具体事例や事象の説明は側注に移行し、本文は重要な流れがすっきりと理解できるようにした。

2 時代の大枠を把握し、それから詳細な事項を追うことができる工夫

- ・世界史全体の動きを大きく捉えることができるよう、部ごとに概観するページを設置し、学習前に見通しができるようにした。
- ・学習の中でポイントをおさえることができるよう、節・小見出しごとに要約文を設置した。

3 生徒の学習の理解を助ける側注・「キーワード」

- ・学習のなかで難解な事項や補足すべき内容については、積極的に側注で解説を加えるようにした。
- ・世界史学習上でよく使用される概念は、とくに「キーワード」として解説するようにした。
- ▶ p.54「冊封と朝貢」、p.161「主権国家」、p.161「重商主義」、p.192「ナショナリズム」、p.202「社会主義」、p.234「帝国主義」、p.275「ファシズム」など計32箇所

4 学習の導入となる風土の記述・地域のようにすがわかりやすい植生地図

- ・1部の各諸地域の学習の冒頭に、その地域の風土について解説する小見出しを設置し、その単元で学習する地域の自然環境やそれが歴史に与えた影響について理解を深められるようにした。
- ・風土の小見出しに合わせて、ダイナミックで美しい植生表現の地図を設置し、その地域の自然環境を視覚的に理解できるようにした。
- ▶ p.13「オリエント・地中海地域の風土と人々」、p.37「アフリカの風土と社会」、p.38「南アジア世界」、p.44「東南アジアの風土と社会」など計9箇所

5 歴史学習に必要な地名を確認できる見やすい地図

- ・全体を通して、地図を豊富に設置し、できごとや事件がどの場所で起こったのかをすぐに確認できるようにした。また、地図には解説文を付すことで、生徒が地図を読み解くための一助となるようにした。
- ・巻頭・巻末に自然環境、行政区分の世界地図を設置し、世界の風土や現在の国の位置など生徒の地理的認識を補足できるようにした。

6 学習事項を定着させる「Let's Try」

- ・「Let's Try」という問いかけを側注欄に設置して、学習した内容を地域の違いで比較したり、時代による変化をまとめたり、因果関係を示したりする作業を促すようにした。これにより、世界史の理解を深め、定着させるようにした。
- ▶ p.19「アッシリアとアケメネス朝ペルシアの統治政策について比較してみよう。」、p.52「漢が郡国制をとった背景と、その結果についてまとめてみよう。」など計51箇所

7 歴史的思考力を高める特設ページ「Skill を高める」

- ・時代順に歴史をまとめる力(時間軸)、世界史を同時代の空間でまとめる力(空間軸)、文字史料や絵画資料をよみとく力、学習した内容から現代の諸課題を捉え未来を展望する力を高められるよう、「Skill を高める」という作業ページを設置した。
- ▶ p.70「暦は何のためのもの?」、p.119「文字はなぜ広まったのか?」、p.229「服装から見る日本と中国の西洋化」など計6箇所

8 生徒の自学自習をサポートするための工夫

- ・該当ページで扱っている地域がすぐに確認できるよう、ページの左端・右端に中央ユーラシア、東アジア、日本、南・東南アジア、西アジア、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカ(オセアニア)の地域インデックスを設置した。
- ・行間には、本文に関連する図を示す参照記号を付し、本文とページ内の図や写真との関連を明確に示すようにした。
- ・同様に、学習内容が他のページと関連する場合には、関連する内容が掲載されたページを示す「リンク」を行間に設け、学習をより深められるよう配慮した。
- ・さくいんでは、人名と事項の区別がつきやすいよう、人名を赤字にした。

2 対照表

学習指導要領の内容	図書の構成・内容	該当箇所	配当時数
(1) 世界史への扉	世界史への扉		
ア 自然環境と人類のかかわり	自然環境と人類のかかわり	p. 巻頭Ⅲ～3	1
イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり	日本の歴史と世界の歴史のつながり	p.77,130,138	1
ウ 日常生活にみる世界の歴史	日常生活にみる世界の歴史	p.152～153	1
(2) 諸地域世界の形成	1部 諸地域世界の形成と交流		
ア 西アジア世界・地中海世界	序章 人類の出現	p.10～12	1
	1章 オリエント世界と地中海世界の形成	p.13～36	8
	2章 サハラ砂漠以南のアフリカ	p.37	1
イ 南アジア世界・東南アジア世界	3章 南アジア世界の形成	p.38～43	2
	4章 東南アジア世界の形成	p.44～46	1
ウ 東アジア世界・内陸アジア世界	5章 東アジア世界のあけぼの	p.47～54	3
	6章 中央ユーラシア世界の形成と展開	p.55～62	2
	7章 東アジア世界の変動と再編	p.63～77	5
エ 時間軸からみる諸地域世界	Skill を高める 時間軸からみる諸地域世界	p.70	1
(3) 諸地域世界の交流と再編			
ア イスラーム世界の形成と拡大	8章 イスラーム世界の形成と拡大	p.78～92	4
イ ヨーロッパ世界の形成と展開	9章 ヨーロッパ世界の形成	p.93～112	7
ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界	10章 ユーラシア大帝国の出現	p.113～118	2
エ 空間軸からみる諸地域世界	Skill を高める 空間軸からみる諸地域世界	p.119	1
(4) 諸地域世界の結合と変容	2部 海洋による世界の一体化		
ア アジア諸地域の繁栄と日本	1章 アジア諸地域の栄華と成熟	p.122～145	7
イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界	2章 大規模な分業体制の成立	p.146～163	5
	3章 ヨーロッパ諸国の主権強化と 大西洋三角貿易	p.164～181	5
ウ 産業社会と国民国家の形成	4章 環大西洋革命 ～工業文明と国民国家の誕生	p.182～194	5
	5章 イギリスの覇権と欧米の国民国家建設	p.195～210	5
エ 世界市場の形成と日本	6章 世界の一体化の進展とアジアの変容	p.211～228	5
オ 資料からよみとく歴史の世界	Skill を高める 資料からよみとく世界の歴史	p.176,194,229	3
(5) 地球世界の到来	3部 地球社会形成の模索		
ア 帝国主義と社会の変容	1章 世界の一体化の完成とその影響	p.232～253	8
イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現	2章 世界大戦の時代	p.254～286	11
ウ 米ソ冷戦と第三世界	3章 東西冷戦から多極的国际社会へ	p.287～311	9
エ グローバル化した世界と日本	4章 相互依存を深める世界	p.312～325	5
オ 資料を活用して探究する地球世界の課題	Skill を高める 資料を活用して探究する 地球世界の課題	p.326	1

計110
時間